

新型コロナウイルス感染症に対する院内および  
施設内感染対策の確立に向けた研究

研究分担者 遠藤史郎 東北医科薬科大学医学部感染症学教室 役職 准教授

研究要旨

高齢者介護施設においては、医療的資源に乏しいことから、新型コロナウイルス感染症を持ち込みリスクを低減することが肝要となる。一方、新型コロナウイルス感染症が高齢者介護施設で発生した場合には、確実な初期対応を行うことが、その後の感染拡大防止のための key point になる。本分担研究では、高齢者介護施設に持ち込まないため、持ち込んでしまった場合の確実な初期対応に関して（ゾーニング）、実在する介護施設を使用した動画による実践的教育ツールを開発し、その評価を行った。

A. 研究目的

領域別の新型コロナウイルス感染症対策に関する本研究において、高齢者介護施設における感染対策の実施に役立つ資材を開発する。

B. 研究方法

高齢者介護施設で行われている持ち込み防止対策、感染者が出た場合の対応を動画による実践的教育ツールを作成し、実際の介護現場で評価した。

（倫理面への配慮）  
とくになし

C. 研究結果

実際の高齢者介護施設を活用し、基本的な持ち込み対策として「こんなところに落とし穴？新型コロナウイルス感染予防対策を見直そう」、また確実な初期対応に結び付けるために「感染者が出てしまったら・・・新型コロナウイルス知っておきたい対処法」の2つの動画を作成し、宮城県内の31 高齢者施設に対して動画に関するアンケートを行った結果、29の施設で9割以上の理解が得られた。

D. 考察

本分担研究では、高齢者介護施設の感染症対策の根幹となる持ち込み防止対策、および感染者が出てしまった場合の初動対応の2つについて、動画を用いた解説を行い、ゾーニングの実例を紹介した。アンケートにより、ゾーニングへの理解は得られたものの、実際の運用に関しては理解度が低かった。施設ご

との構造上の違いなどが影響していると考えられた。他、換気、手指消毒、不織布マスク、環境清掃、个人防护具に関しては理解度が高かったことから、基本的な対策の習得に本教育ツールは有効であったと考えられた。

E. 結論

本分担では高齢者介護施設の感染対策を担当した。高齢者介護施設の感染対策、感染拡大防止の根幹となる持ち込み防止対策、発生した場合の適切な初動対応は、すべての高齢者介護施設のスタッフが熟知しておく必要がある。本動画内容は実際の現場スタッフにも理解しやすい内容となっており、高齢者介護施設における新型コロナウイルス対策の一翼を担うツールであると考えられた。

F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載。

G. 研究発表

1. 論文発表  
なし
2. 学会発表  
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

